

アトランティスブリッジベースを使用したフルデジタルのワークフロー

Uni アバットメント EV と、個別設計が可能なアトランティスブリッジベースの組み合わせは、下顎前歯部のような限られたスペースや審美性が求められる症例において有効である。今回、4x4の欠損部に対し、Uni アバットメント EV 上にアトランティスブリッジベースを装着した症例に対して、可能な限りデジタルデータにてアプローチしたケースを紹介する。

アトランティスブリッジベースは、CAD/CAM により高精度で設計され、補綴装置の強度と審美性の両立が可能となる。なお本症例はインプラントが4本埋入されており、精密な位置関係をデジタルで再現するポイントも併せて紹介する。



福井 健太

CURA ESTHETIC DENTAL CENTER (愛知県名古屋市)

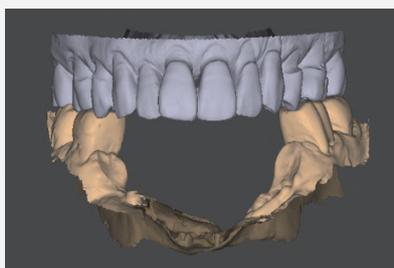
所属団体

日本口腔インプラント学会
日本臨床歯科 CAD/CAM 学会
日本歯科技工士会



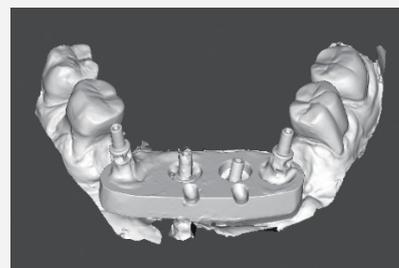
1. 【CLINIC】初診時の状態。

321 | 123 のインプラント治療相談にて来院。下顎前歯の周囲はほとんど骨がなく、高度動揺のためインプラント補綴となった。保存不可のため、抜歯後インプラント治療を計画。



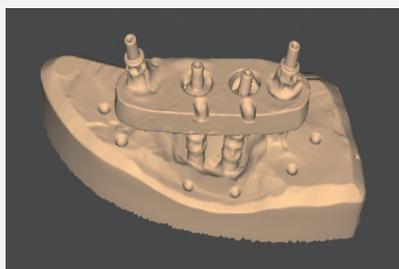
2. 【CLINIC】インプラントを4本埋入した後の印象時の状態。

プライムスキャンにて、歯列、歯肉貫通部、対合歯、咬合状態をスキャンする。精密なインプラントポジションを採得するため、ペリフィケーションインデックスを用いることとする。



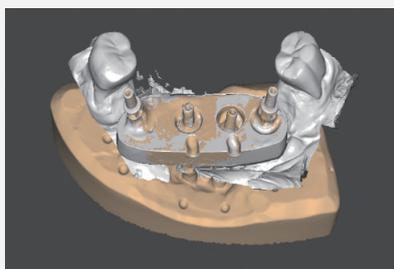
3. 【CLINIC】口腔内にてポジショニングインデックスを装着し、歯列を含めスキャンした状態。

ラボサイドにて作製したペリフィケーションインデックスとアナログ印象用コーピングを口腔内にパターンレジンで連結後、スキャンを行う。ペリフィケーションインデックスは印象後ラボに手渡しとなる。



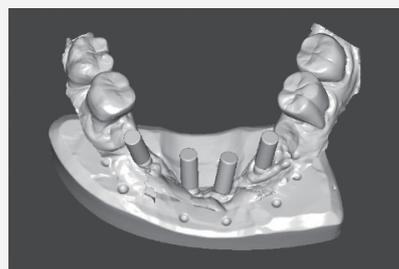
4. 【LABO】インデックス模型を作製してスキャンした状態。

ラボサイドにてアナログ用インプラントレプリカをインデックスに装着後、超硬石膏を流しインデックス模型を作製する。マッチングを正確に行えるようにするため、インデックス模型にマッチングポイントを付与する。



5. 【LABO】IOS データのインデックスを軸にインデックス模型のスキャンデータをマッチングさせた状態。

この作業によって、口腔内のインプラントポジションを、インデックスを基準とした位置に変換できる。



6. 【LABO】スキャンボディーのデータを取り込んだ状態。

インデックス模型にスキャンボディーを立てて、マッチングポイントを利用して

図5のデータにマッチングをする。

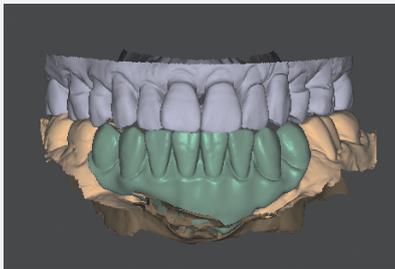
※筆者はこのマッチング作業を exocad で行った。

症例提供：愛知県高浜市 神谷デンタルクリニック 院長 神谷 龍一先生

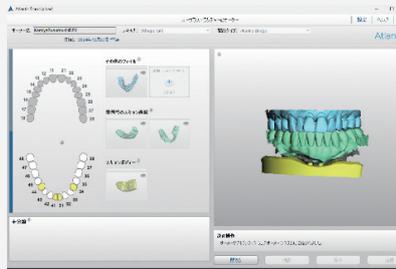
CASE REPORT は著者による実症例を紹介することを目的に作成しています。

臨床医 / 技工士向けの参考として掲載されたものであり、必ずしもデンツプライシノナが推奨するものではありません。

レポート中に記載されている™および® は、米国連邦商標法に基づき記載されたもので、日本における登録商標を意味するものではありません。



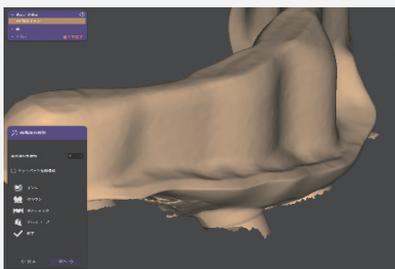
7. 【LABO】1st wax up した状態。
1st wax up を行い全てのデータを
Atlantis Scan Upload から送信し、
ブリッジベースの設計を依頼をする。



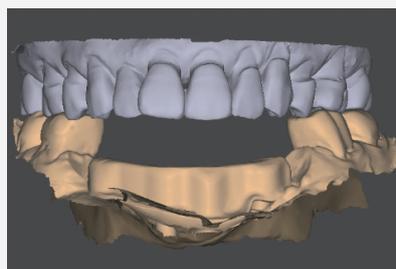
8. 【LABO】データアップロード画面。
従来のアトランティスアバットメントの
オーダーと同様にデータの添付を行う。
上下歯列は、IOS データ。スキャンボ
デーは、図6で変換したインデックス
のデータ。歯冠形態は、図7で作製した
1st wax up データを添付する。



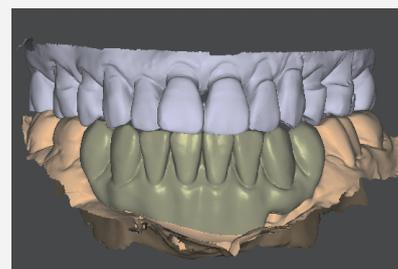
9. 【LABO】デザインされたブリッジ
ベースと1st wax up の形態確認。
ブリッジベースとジルコニアの適合精度
を高め、ジルコニアの強度を担保するた
めに、高さを低くし、頬舌の幅を広くし
たデザインにする。細部の要望はメーカ
側とコミュニケーションが必要となり、
要望は叶うと感じた。



10. 【LABO】ブリッジベース本体をス
キャンした状態。必要があればコアファ
イルを使用することは可能だが、本症例
はこの方法を採用した。ジルコニアの適
合精度をより高めるためには、ダブルス
キャンテクニックが必要と考える。



11. 【LABO】ダブルスキャンしたブリ
ッジベースをデータ変換した状態。
図6の時と同様にインデックスを用いて、
コアファイルデータのブリッジベースと
ダブルスキャンしたブリッジベースを変
換する。



12. 【LABO】最終デザインした状態。
図7で作製した1st wax up データを取
り込み、上部構造をデザインする。



13. 【LABO】シンタリング後のブリ
ッジベースに乗せた状態。ジルコニア内面
は無調整である。
ダブルスキャンを行ったことによって、
高い適合精度を得られたと考えられる。



14. 【LABO】ステイン・グレースを行
い、セメンティングをし完成した状態。
ステインは、GC スペクトラムステイン・
IQ ラスターペースト ガムシードを使用。



15. 【LABO】口腔内装着時の状態。
口腔内での調和が取れ、患者の満足を得
ることができた。粘膜面からメタルを少
し露出させ、清掃性と審美性ならびに強
度を実現できたと考えられる。



16. 【CLINIC】ファイナル装着時の状態。
接合部に隙間は無く良好な適合を得られ
た。

アトランティスブリッジベース トレーニング動画



IOS データの
インデックスと
インデックス模型の
データのマッチング方法



IOS データと
スキャンした
アトランティスブリ
ッジベースのマッチング方法



最終デザイン
の方法

販売名：オッセオスピード プロファイル EV、一般的名称：歯科用インプラントシステム、承認番号：22900BZX00322000、クラス分類：III
販売名：外科用インスツルメント オッセオスピード EV、一般的名称：手術用ドリルビット、届出番号：13B1X10236Y05460、クラス分類：I

製造販売元：デンツプライシロナ株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-21-1 住友不動産汐留浜離宮ビル
カスタマーサービスホットライン 0120-667-467
www.dentsplysirona.com

Dentsply
Sirona

MRK040000144_202601_M101